

# アメリカノースカロライナ TEACCHセンター

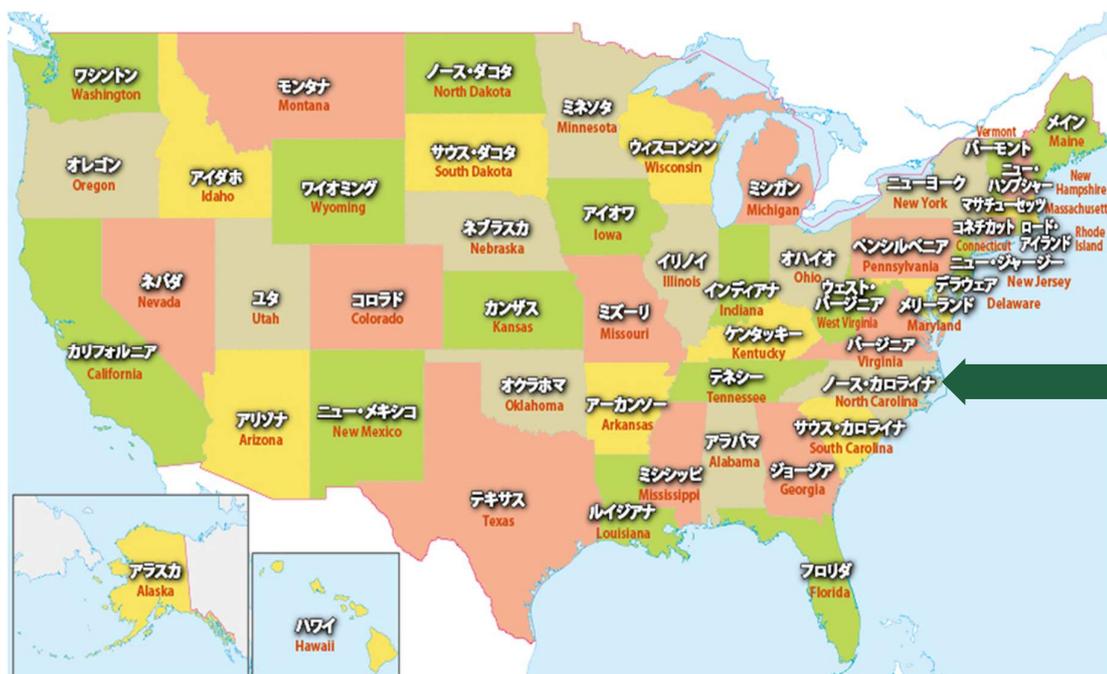


2019年3月4日(日)～  
13日(水)

社会福祉法人県央福祉会  
理事長 佐瀬 睦夫

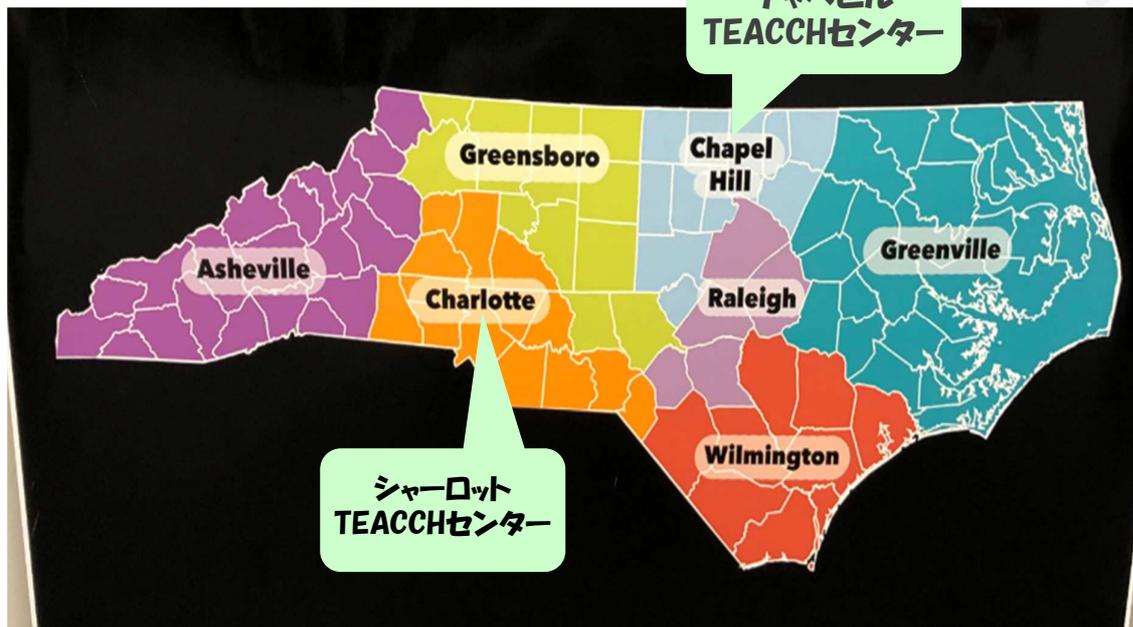
今回のノースカロライナGHA及びTEACCHセンター訪問は、川崎医療福祉大学の諏訪准教授、あすなろSmile(岡山市)の水田有美さん、大阪市自閉症児支援センターWave(ウェーブ)の須川明子さんと私、県央福祉会の佐瀬睦夫の4名です。

## アメリカ合衆国全州地図



ノースカロライナ州はアメリカの南部に属しますが、3月はまだ寒く、花も水仙が咲いている程度でした。

# ノースカロライナ州



ノースカロライナ州内の7つのTEACCHセンター図

# GHA Autism Supports



Carolina Farms の入口の看板



Carolina Farmsは 39エーカーという広大牧場です。ここに3つのグループホームとニワトリや馬(乗馬療服用) 野菜、ガラス工房やプールやグラウンド、パズルをも模様した公園等があった。

☆1日目 3月5日(火)  
GHA Autism Support



### Meeting with Dawn (ドン・アレン) 所長 and Janet

1978年の子どものグループホームが最初で、1981年にドン・アレンは支援者として働き始めた。1985年には、スーパーバイザーになって、管理者として働いている。

6名から7名で1つのグループホームだが、現在は4つのグループホームとデイプログラムとカロライナファームとカフェを運営している。

これからMorrow Valley Farmstead (2020年夏開所の予定)

28のプログラムと100名を超える自閉症の人の支援をしており、そのうちの3つはウィルミントンという別な場所で展開している。

スタッフの数は約260名。カロライナファームのこの建物は主の管理棟で、財政や人事などの担当者が詰めている。利用者は11歳から65歳まで。

年間予算は、当初は7,800ドルだった現在は100万ドル? と言っていたが、間違いのように思う。



### Carolina Farms

3つのグループホームと緊急時のホームがあった。1つのグループホームは6名。スタッフは日中活動で2名、夜間は1名。18名の人が暮らしている。2005年から活動を開始した。

このカロライナ・ファームは39エーカーという広大な農場! スイミングプール (9フィートくらいの深さ) や馬場、納屋 (乗馬治療に使う馬が2頭飼育されている)、鳥小屋、ガラス工房、果樹園・野菜の栽培も行っており、現在は水耕栽培の実験も行っている。火曜日は馬場で馬に乗る日だが、この日は寒くてキャンセルになっていた。ホームの裏に広い運動場もある。Kiyokoさん (母親は日本人で黒人) スタッフ3人の利用者がガラス細工に従事している。また、2人の利用者は紙をちぎって馬やニワトリの肥料作りをしていた。

## アメリカノースカロライナ GHA(group home autism)



珈琲&カフェレストラン『SUNDRIES』の前でドン・アレン所長と諏訪さん・水田さん・須川さん・私佐瀬で記念撮影



センソリーガーデン

上から見たらパズルの形。食べる、香る、聞く、見るはあるが、触るはこれから作っていく予定。パズルのピースを模した公園の一部

## ハワードハウス Howard House

危機的な状況にある人が暮らすスペース。刺激の少ない環境の中で、落ち着いたら徐々にグループホームへと移行する。医療的ケア（薬物治療）と余暇の提供と、本人のニーズに合わせて生活を作っている。

## Doby Home（ドビーハウス）

バチエラーたちの住む館をイメージしている。ビリヤード台やテレビなどのあるホールルーム。マネージャーはバートさん。バートさんの支援はあるものの、他のグループホームよりは支援の度合いは少ない。いずれはアパートメントに移行すべく「自立」を大きなテーマとしている。

ここには若い4人の高機能の男性が暮らしている。そのうちの一人がアランさんで2階に住んでいる。アランさん、ジェイランさんともサンドリーズで働いている。4名のうちの3名はサンドリーズで働いている。



## Starr Apartments (日本で言うアパート)

4人の入居者（2名は女性、2名は男性）がおり、週2時間働く人から35時間働く人まで。リンさんは短時間ではあるが「サンドリーズ」で働いている。サラダやフルーツカップを作るなど、裏方の仕事をしている。自炊もしている。



アランさんは、車の免許を持っている。スターバックスのマニュアルを1週間ですべて暗記した。バリスターとして誇りを持っている。

リンさんは、過去のカレンダーの曜日を全て記憶している。



社会福祉法人 泉央福祉会

9



アレン所長と乗馬用の馬



ニワトリや馬の餌も構造化されています

社会福祉法人 泉央福祉会

10

## ガラス細工のカッター・窯・作品等



製品の一部

**電気釜**  
ガラスのビンやカットしたガラスを石こう型に入れて、皿やアクセサリー等を焼成する。約12～18時間かかる。

## SUNDRIESの外観・利用者さんとパントリー内での作業風景

SUNDRIES



サンデラース（ピザの専門店）



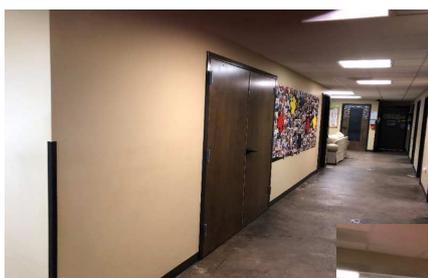
スターバックス  
（コーヒーショップ）



SUNDRIES内のギフトショップでは、ガラス商品や石鹸などを販売している。  
専門業者と契約し、ピザ専門店とコーヒーショップを出店、利用者さんが活躍している。  
アランさんは文字のついたTシャツを着たくなくて、スターバックスでは黒いTシャツを着ている。



利用者さんに理解できるように視覚化され、  
職員の声かけを出来るだけ少なくしている



この施設は回廊式になっており、利用者が不安定になった場合は、この回廊式の廊下をぐるぐる回れる作りになっていた。

スケジュールボード



高機能の利用者さんだろうと思われる方が、  
1日の振り返りとミーティングをしていた。

## Day Services (日中活動)

それぞれのメンバーは自分の机を用意されており、それぞれのスケジュールで動く。

自分の興味関心の上に張り付ける形のスケジュール表。

スケジュール自体を透明なプラスティック板でカバーすることで、スケジュールをはがしてしまう人の行動を予防している。

おやつへの棚だしや鍵の使い方、緊急時の電話のかけ方、パソコンを使えるまで待つこと等が書いてある。

いろいろな行事の写真が貼ってあり、フェイスブックにも紹介しているらしい。



1日のプログラムについて、スタッフは利用者あまり声かけや促しをしない。利用者は視覚化されたプログラムに沿って1日を送る。

## 作業訓練用の設備



洗濯の手順を学べる環境が用意されていた。



## ☆2日目 3月6日（水）（シャーロットTEACCHセンター）



建物の1階がシャーロットTEACCHセンター



TEACCHセンターの「ミッション」や「バリュー」が各センターに掲げられていた。



プレイルームの様子がモニターに映されていて、ジョイスからレクチャー。

### ジョーダン・ウィリアムズ君（男・7歳）ケーススタディ

（ディレクター ジョイスさんから）

2歳半の兄弟がいて双子。帝王切開。標準体重で出生。お母さんはHIV陽性。本人はHIVではない。

発達の遅れがある。アイコンタクトがない。コミュニケーションの問題を抱えている。泣いたりわめいたりする。構音に問題あり。耳を触るのが好き。興味の持ち方が狭い。お母さんと一緒にしか眠れない。偏食で赤いものは食べない。ドライなものを好む。ソースがかかっていると食べない。トイレに行くのが怖い。

お母さんはストレスを受けやすいところが心配。しかし、母親は子どもの自閉症特性に気づいてはいない。

### 【ケースのレクチャー】

家族歴（母親側）

ADHD, CP, うつ, HIVの人がいる。

本人は、今の学校の前に2つの学校を転校。昨年の春、学校で認知検査をした。

#### スタンフォード・ビネー検査：

言葉をあまり使わない検査なので、自閉症の人には向いている。ギフティドの人にも、DASやWISC・WAISよりも向いているだろう。

父親の情報はない。お母さんは離婚している。子どもの情報を父親に伝えるのは大切な事。いろんな研究から、家族内の状況に自閉症の要素があると、それが影響していることは明らかなので、子どもを診断する時には、双方の家族歴を把握することは重要。

ジョーダンについては、いくつかの診断がつくと思われる。お母さんが言葉の遅れ、自閉症、ADHD、多動について理解しているかはわからない。

2年前にはGlobal Developmental Disorderという診断がついたが、通常5歳前の子どもにつく診断である。今は7歳なのでこの診断名は不適切。

一人でトイレにいけない、一人で寝られない、という不安の強さもある

気がそれやすい、注意集中が難しいところもあるので、ADHDの診断もあるかもしれない。

### ドンさんの話

モローバレーの話の中で、自閉症の高齢者の研究は少なく、幼児の早期療育や学齢期の支援、就労支援は多く研究されているが、医療的ケアの必要な高齢者にとっては研究もほとんどない状態。

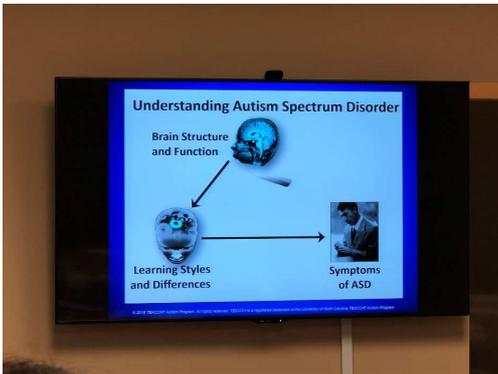
医療ケアのもとに生活ができて、ホスピス的な役割も担うつもり、と言う。

ドクターはモニターで、指先の血液状態から表情などみんなモニターで観察できるように挑戦している。

10年以上前のこと、20年近く関わってきた人に医療的ケアが必要になった。

「彼のために高齢者向けのグループホームを作りましょう」とノースカロライナ全州、全国に呼び掛け支援の手を求めたが、どこも手を挙げなかった。

Dr, Geraldine Dawson（デューク大学の先生）との出会いから、10名の高齢者向けのグループホームを作ることにした。



こんな、視覚文化が成熟している



グレッグさんと記念撮影

### グレッグ (46歳) 談

僕は感情が不安定だったけど、TEACCHに来て安定した。今までの人生を振り返った時、30年か13年か人生が止まってしまったように感じていた。どうしようもなくなってTEACCHに来て本当に良かったし、とてもうれしい。感謝している。これからの将来が変わるだろう。TEACCHで診断を受けた時、母はうれしくて泣いた。それは僕に助けが見つかったから。僕は何か期待されて行動するのは苦手。話しすることはできるが、自分で決めて行動することは難しい。生産性について話した。実行機能の問題がある。そのあたりが課題である。計画や組織だって行動することは苦手。

生活と仕事のバランスと柔軟性が課題であろう。自他の区別をつけていくこと、なんでも引き受けてしまうのではなく、ノーということ、人に助けを求めることが課題。TEACCHの人達との間ではできるようになったが、今後はそれを拡げていくことが大切。

9歳の子どもがいて、離婚歴あり。彼が知らない間に母親（妻）が養育権をとってしまい、本人は何の問題もないと思っていた。役所からの税金請求の書類で「間違っている。あなたは離婚したのでシングルにチェックするように」と手紙をもらって、離婚していたことに初めて気が付いた。そして一気に混乱した。

以前はジムのパーソナルトレーナーであったが、今は働いていない。たくさんの資格をもっているが、それぞれの資格の優先順位を決めることができない。そのため、資格をまとめることができない。

ジョイスと面談した時も、100枚以上の名刺を持っていて見せてくれた。一枚の名刺を作るのに、何時間も時間をかけていて、それが重要だと思っているふしもある。

毎週カウンセリングを受けることになった。今日はその初回。



様々な視覚化されたカード類。  
このようなカードによって  
日々の活動は構造化されている。

## ☆ 3日目 3月7日（木）（シャーロットTEACCHセンター）

### TEACCHは複合した介入モデル

早期発見、早期診断は大きなゴールの1つです。文化の影響で様々な違いがある。

TEACCHは自閉症の人に学びやすいように27のエビデンスのあるやり方を行っている。その中の1つはビジュアルストラクチャー、それをまとめたものが構造化ASDで、**どのやり方が使えるかを見極めるためにどういう学習スタイルを持っているかを知ることから始める。**

私たちのすることのすべてに親も関わってくる。私たちは親と関わるということを長年行ってきた。本人だけでなく、家族と話し合っていく。私たちが何かを自閉症の人に教えるけれど、ここだけではなく、**いろんな場所で学ぶ必要があり、身につけるためのサポートは家族の協力が必要。**だからしっかりと連携していかなければならない。**結果だけ伝えても分からないのでそう考えた理由を説明する必要がある。**

見るからに自閉症という典型的なタイプは、今は他の機関にリファーすることが多い。他の機関でもそこそちゃんとみられるようになったから。TEACCHにつながるケースは、診断が複雑でわかりにくいケースが多くなっている。

兄弟児の研究や自閉症の人が親になっていく研究は、今後の話題。

クリニックで見ているものとしては、自閉症の学習スタイル、実行機能の弱さ、顕在的に学ぶ、etc。

クリニックでは4人が家族を持ち、うち2人は子どもがいる。

自閉症の人は59人に1人でどんどん増えている。

20年前は10,000人に3人から4人。将来を見越した支援が必要。

早期療育を3～4歳で始めるなら、うまく行かない。診断が3～4歳でされることが多いから。でもNCでは3歳前に診断される。

ASDの兄弟は早めに診断につながるようにしている。

Red flags は社会的なつまづきにつながりやすい項目をあげている。多くの親は言葉の遅れに注目しがちだが、それだけではない。

早期診断するには、5つの領域を見る必要がある。DSM-Vでも幼児はもっと細かく見る。

友達との友情というところについては、情報を集めないといけないと思っています。彼女はもっと友達になりたいと思っているし、同年代の人を見つけないといけない。彼女にとっての情報は限られているけど、友だちをどう考えているか、友だちから言われたことをどう受け取っているかも調べないといけない。

お母さんやおばあちゃんの話からDSM-Vの1の領域は家で支援できているけど、本人の力がどれくらいあるかわからない。サポータータイプな関りをされているけど、もう少しチェックをしなければいけないと思っている。

7歳や10歳の子もだったら、この領域をインタビューで調べることができるけど、幼児の場合は、一体どうしたらわかるのでしょうか。それが難しいですね。

その中の1つとして、デイケアのようなところで、**普通の幼児の中での様子**を見ることでわかる。**保育園での様子**でチェックできることもある。

DSM-Vで言われているような**感情表現とは何か**、DSM-Vの領域で言われていることについて考えていかなければいけない。

そうすると**幼児の場合は言葉ではなく、非言語的なコミュニケーションの部分、つまり人を見ているか、関われるかについて考える必要がある。**

DSM-Vは、4つの細かい領域に分かれている。このうち2つが満たされれば自閉症と診断されることになる。1番は3つとも兼ね備えていないといけない。そして、その後の4つのうちの2つがあれば自閉症と診断される。

繰り返しの行動というのは、18か月以上の子どもに見られ、それ以下の子どもには見られない。幼児では常同行動としてとらえる行動よりも、物の使い方に対して同じことをすることが多い。

同じ言葉を繰り返すこと、常同行動としては現れない。ある状況で同じことをするということは観察しやすい。電気がついたら泣くなど、前提条件で起きていることがある。**生活の中での決まった状況で起こることについて、家族が気づいていないこともあるかもしれないけど、そういうことを探していくことが必要ある。**

それから、鼻の中に物を突っ込むという話をして、クリニックではそういうことは許されないことだよ、と伝えると「わかっています」といった。

あなたに理解してもらいたいのは、誰もあなたに「鼻に物を突っ込んではいけない」と言わないけれど、言われなくてもそれをわからなければいけないということだ、と伝えた。こういうやりとりがエマがどういう考えを持っているかを探るヒントになる。

## ADHDのチェックリストは知っていますか？

私たちはこれをヴァンダービルドと呼んでいてお勧めです。

その兆候としては1～55項目に分かれていて、1～47の項目がADHDの特徴があるかどうか、48～55が本人の行動をチェックする項目になっている。

1～47は4件法、48～55は5件法でチェックすることになっている。

どんな症状があるかというと、

- 1 宿題があった時、細部に注目できずしばしば間違いがあるか。
- 2 しなければいけないことに注意を向けられるかどうか。
- 3 直接話かけられたことを聞いていないように見えることがある。
- 4 指示を与えられた時にその活動を最後まですることができないことがある。
- 5 課題や活動を順序よくこなしていくことに問題がある。
- 6 精神的な継続的な課題をしたがらない、あるいは避ける、いやがる。
- 7 課題や活動に必要なものをなくしやすいことがある。たとえばおもちゃや鉛筆や本など。
- 8 音や他の刺激に気がそれる。
- 9 毎日の活動でも忘れることがある。
- 10 椅子にじっと座っていることができない。
- 11 席についているように期待されている時でも席を離れてしまう。
- 12 席についているように期待されても、そこから走り去ったり、足を机の上に乗せてしまうことがある。
- 13 静かに遊ぶことができない。
- 14 あたかもいつも何かに突き動かされているかのように見える。

- 15 シャベリすぎる。
- 16 質問が終わる前に答えてしまうことがある。
- 17 自分の順番を待つことができない。
- 18 他の人の会話や活動を邪魔したり、割り込むことがある。
- 19 大人に文句を言う。たてつく (arguing??)  
例えば大人が納得いかないことを言っても、普通は「チェッ」と言いながらするけど、ADHDの人は怒って従えない。
- 20 カツとなりやすい。
- 21 大人が要求することやルールにうまく従うことができず、それを拒否する。
- 22 しばしば他の人を悩ませる行動をする。
- 23 自分の間違いや誤った行動を指摘した人を責める。咎める。
- 24 他の人の行動にしばしば気がそれてイライラする。
- 25 イライラしやすい。
- 26 イライラして相手のことを邪魔する。
- 27 他の人をいじめたり脅したり不親切にする。
- 28 けんかっばやい。
- 29 何かトラブルから抜け出すことや、やらなければいけないことから逃れるために嘘をつく。
- 30 許可なく学校を休む。
- 31 他者に対してひどいことをする、冷酷なことをする。
- 32 盗んだことがある。
- 33 わざと他の人の持ち物を壊す。
- 34 バット、レンガ、ナイフ、銃で人を傷つけるような武器を使ったことがある。

- 3 5 動物を傷つけたことがある。
- 3 6 わざと火をつけたことがある。
- 3 7 他の人の家や会社、車を壊したことがある。
- 3 8 無断外泊をする。
- 3 9 家から逃げて、夜を明かしたことがある。
- 4 0 誰かに無理やりセクシャルアクティビティをしたことがある。
- 4 1 恐れがある、心配している、不安がある。
- 4 2 間違いをするのではないかと、新しいことをするのが苦手である。
- 4 3 自分は価値がない、劣っていると感じている。
- 4 4 自分には問題がある、あるいは、罪悪感を感じている。
- 4 5 孤独である、望まれていない、愛されていないと感じている。誰も自分を好きじゃないと不平をいう。
- 4 6 悲しい、不幸せ、うつだと感じる。
- 4 7 自分に自信があるが、簡単にへこたれる。
- 4 8 学校での全体行動が苦手である。
- 4 9 読むこと。
- 5 0 書くこと。
- 5 1 算数。
- 5 2 親との関係。
- 5 3 兄弟との関係。
- 5 4 仲間との関係。
- 5 5 組織化された活動やチームへの参加が苦手である。

エモーション：ハッピーな時あなたはどんなことをしていますか？

Qどんなふうに幸せを感じるの？

「聞き取れず」

Q次は心配なことはある？心配な時はどんなふうになるの？何するの？

「泣いたり、・・・聞き取れず」

Q怒ったときは？

「何に怒るの？」「動物に何かをされるのは嫌だ」人に対しての共感ではなく、動物に対して共感を示す。

Q悲しい時は？

「やる気がなくなっちゃう」何かすごくしゃべっている。

Qアンキシャス（心配？）な時は？

何かしゃべるがわからない、聞こえない。カメラを指差し気にする

Q声をあげるってどういうこと？

Q誰かをからかったことある？

「幼稚園の時にいじめられてた」「洋服がすごく好きで興味があって(聞き取れず)」

Q友達はいる？

「たくさんいる」友だちの名前を挙げている。ダニーは女の子？「男の子」「ダニーはベストフレンド」「スタンリーという子もいるよ」「学校に行っていないから会っていない」

Qなんで友達って必要だと思うの？  
Qなぜそれがあなたの友だちだとわかるわけ？  
Qただ学校にいる友達とその子たちとどう違うの？  
Qボーイフレンドはいる？  
「no!」  
Qいつかボーイフレンドになる？  
「no!」  
Qなぜ大人になったら結婚すると思うの？

1 3番にある（ロンリネスについて聞く）

Q孤独を感じたことある？あなたのお友達も孤独を感じたことがあると思う？  
返事なし

一人遊びの観察

コマを回して遊ぶ、ケースの中でボールを転がしてゴールに行く遊びをしばし一人でする  
その後、先生に声をかけるが、反応されなかったので、あきらめる。少し大人を気にする様子  
はあるが、話しかけたり関わりを求めるのは少し苦手な様子。  
その後お絵描きを始める。

・どんなトレーニングをしているか？

2種類あって、研修はTEACCHとしてのプレゼンテーションをするための研修、スタッフとして私  
たちは、マスターレベルの心理士、臨床ソーシャルワーカー、みんなマスターを持っている。  
ドクターレベルの心理士、**TEACCHのスタッフとして採用されることが決まったなら、研修を受ける  
ことが決まっています、きちんと構造化された決められた研修を受けることとなります。**  
詳細はTEACCHのスタッフとして、トレーニングを受けるだけでなく、トレーニングを実施できない  
といけない。それも構造化されていて、同じトレーニングなので、トレーニングを受ける時、どこの  
TEACCHセンターからスタッフが集まっても同じことができるようになっている。

・ウェイティングリストの優先順位はどうやって決めているのか？

基本は受けた順です。緊急性が高い場合は順位が上がる。例えばどうにも困っている、本人自身が  
困っている時は上がるかも。また、年齢によって待たせていい時間が違うので、それによっても違う。  
3歳までの間、学齢期、成人期、によっても違う。

16歳の女の子(インド系?名前は不明)

インディペンデント高校に通っている。きょうだいが一番上の子ども。日本の大学に行って、アニ  
メーションや、演劇の勉強をしたい。去年自分が自閉症だと知った。

## ☆ 4日目 3月8日（金）（シャーロット TEACCHセンター）

職員ジョイスの話から：

今日の午後は、水曜に来た「自殺するかもしれない」と言っていた成人女性の対応。

最近、TEACCHセンターには自殺企図じさつきとのある人が来るようになってきています。

リスクマネジメントについての理解が必要になっています。  
リスクマニュアルも作成している。

今日は他に2歳男児の早期療育・介入についてのケースがある。男児は1月に診断を受け1週間後にケーシーがインタビューし、その後ジョイスが評価をした。

評価ではM-CHAT、ADOSのトドラー-ver.、Mullen Scale（発達検査）を実施済。今日はPEP 3を行う。小児科の先生も来てそのセッションに加わるかもしれない。

2歳の子どもと一緒に関わっていくための準備として、地域の小児科の先生に資料をお渡しすることになると思う。

男児のお母さんは不安症の診断を受けており人格障害の傾向もあるかもしれない。

しかし、セラピストにそのことを伝えていない。子どもが診断されたばかりなので、まだ親子は落ち着いていないかもしれない。

彼女はうまくすべての問題を対処できるようになってはいません。彼女が非常に高い期待を持っているけど、すべての問題をTEACCHが解決したり対処の方法を教えたりすることができるわけではない。だけど、だからと言って何もできないわけではない。強かにサポートしていくことができる。

そうした集中的な（週に3日、4日というサービス）サービスというのは、子どもの部分ではとても多いけど、大人の部分では残念ながら限られることが多い。包括的なプログラムの中のストラクチャーティーチングに焦点を当ててもらおうこの講義を裏付けるというか、今度はチャペルヒルで就労センターに行ってもらえるとわかると思う。かわりについて今までは話してきました。エンゲージメントが生涯にわたり、小さい子が必要としているだけではなくて、大人になっても必要だということである。

クレッグはとても動機づけられていて、助けを求めることへの動機付けもありました。

どんなふうに関わっていくか、新しいスキルを学ぶという時にどんなふうにやっていけばいいかということ学ぶのもこの中に含まれる。

よく誤解されるところだけど、視覚的な手がかりというのは、彼らに教えていくためにするものであって、彼らをうまく管理するためにやるのではない。新しいことを学ぶのは大人にとって簡単なことではない。

自閉症にうまく取り組んでいくことができれば、彼らの問題行動を減らすことにつながっていく。今日みたいに2歳の子どもと接する場合もこれらの考え方が重要になってきます。今現在、どういうスキルを持っていて、どんなことができるのかはもちろん、将来どんなことができるようになるのかということについて考えていくことが必要。

学童期の子どもにどんなことが必要かと考えた時、データを集めることが大事だと思います。昔は学齢期は6歳から18歳までと考えてきたけれど、だんだん縮小しています。学齢から移行していく時期を取り、その時期こそ大事にすべきことがたくさんあるとわかってきたからです。時間が必要です。将来目指していくゴールがここに示されています。

彼らは具体的に学ぶ人たちで、顕在的に学ぶ人たちだから、学校を離れたとたんに学ぶことをやめてしまうことがある。「18歳になったから私は何でも知っている。だからもう学ばない」という人がいるかもしれない。

私たちが思う大事なことは、自閉症の彼らがハッピーでうまくできた手ごたえを持っていること。大事なことは彼らが何を望んでいるのかということであり、どうあるべきかということでも話し合いを無駄にする必要はない。

## ☆7日目 3月11日(月) チャペルヒルTEACCHセンター

私はマイク・チャップマン、TEACCHセンターで30年以上働いています。就労支援部門のディレクターをしています。

昨年度一年間で、500人くらいの自閉症の人にサービス提供をし、地域への移行を支援してきました。そのうちの何人かは、高校のプログラムにいた人です。そして、残りの人たちは何人かは仕事を見つけようとしていたし、何人かは仕事に移行していった人たちです。30人くらいのジョブコーチを抱えています。そういうジョブコーチが地域の中でどのようなことをしているか、今日は見ていただけたと思います。

私がここでしている仕事は、自閉症の人のアセスメントをするだけではなく、仕事を見つけ、仕事を続けられるようサポートすることです。

私たちがサポートしている人は、自閉症の人もいるし、その中には高機能の人もいます。私たちがサポートする人は、単に知的な自閉症の人だけでなく、複雑な問題を抱える人も多くなっています。

なぜかという、実際仕事先があまり重度な人を受け入れたいと思っていないからです。

そういう中で私たちが今、関わっている人たちというのは、子どもの時、重度の障害があると思われていた人たちです。今では身辺自立も確立された人たちです。

中には相変わらずひどい問題行動を持った人たちもいて、ストラクチャーティーチングをすることで重度な人たちでも問題行動を起こさず、職場で働くことができています。

就労というのは、ストラクチャーティーチングを子どものうちからしておくことがさまざまな結果として現れてくるものです。大人として自立して生活できるように支援していくことになります。

もう一つの使える道具としてTTAPという評価検査があります。職業スキルだけとか、いい行動だけという風な限定したことを評価するものではなく、彼らの全体を評価するものです。

社会性、コミュニケーション、自立の3つが含まれています。6月に日本でTTAPの研修をするのですが、TSTEP、TEACCHと合わせてTS(ティーズ)と呼んでいます。

日本とここでの大きな違いというと、彼らがサポートを受けるタイミングかもしれません。日本だと私が聞いているところでは就労移行の時間は2年間くらいと聞いています。

私たちの就労移行の基金として二つの出所があります。1つはアセスメントと仕事を見つけサポートする基金です。もう一つは彼らが将来にわたりサポートが受けられるようにするための基金です。将来にわたるサービスの最短のものは、6か月ですが、もっと長く将来にわたるサービスを受けます。

ただ、だんだんと縮小傾向にあるのが現状です。しかし自閉症の人が増えています。できるだけジョブコーチを増やすために新しい試みをする必要があります。今まで十分ではなかった仕事に関する雇用者、労働者の両方についてトレーニングが必要だと思います。

そういう風にするだけで就労支援トレーニングにけるお金というのは少し減らせるのではないかと、思っています。例えば大学生のレベルでTSTEPのようなことを行うと、就労支援プログラムに乗らなくても就職の機会が増えるのではないかと、思っています。

私たちのプログラムの中ではいくつかのモデルを使っています。

自閉症の人で支援ニーズが高い人はマンツーマンでトレーニングします。政府は自閉症の人を1対1でサポートしてやがては地域に出すことを期待しています。

次のレベルは、今日見ていただくモデルで**モービルクルー**というものです。**1人のジョブコーチが2～3人の自閉症の人を連れて支援して歩く**ものです。モービルクルーでは**主に庭仕事、家の掃除が多い**です。

次のレベルは**シェアサポート**です。もう少し多く、**3～6人くらいを1人のジョブコーチが見る**というものです。その場合、どこかの企業が障がいのある人を雇って、**ジョブコーチがそれらの企業内を巡回**するというサポートです。

もっと能力の高い人の場合は**インディビジュアルサポート**というプログラムになり、**25人から30人の人を1人のジョブコーチがサポート**することになります。この場合は地域のいろんなところで働いている人たちをジョブコーチがサポートすることになります。

障がいのある人の就労を生涯にわたりサポートするサービスというのは、このような4つに分かれています。仕事を見つけた後のサポートというのはこのようなサポートが必要ですよね。

**VR:職業リハビリテーション**という言葉がありますが、今日出会うスタッフがもしかしたら口にするかもしれません。

アメリカの政府がVRにお金を支払っています。インテークの段階でその人が自閉症かどうか判断します。次に行うことが**TTAP**で、どんな行動をしているか、地域の内外で行っているかアセスメントします。TTAPは大体20～30時間をかけて、本人の情報を集めていきます。TTAPのアセスメントを通して、本人がどういう仕事に向いているのかを見ていくことになります。実習の時にはお金は本人には支払われません。

アセスメントの結果から、本人に合った仕事を見つけていくことになり、その仕事は2週間くらいの仕事から2年くらいの仕事まであります。**正しい仕事を探すために幅のある期間**になっています。**社会性とコミュニケーションと、職業スキル**の3つを見つけていくことになります。

その中で仕事を維持していく時にストラクチャーティーチングをしていくことになります。そもそもアセスメントのときに、どんな行動をするかを見ます。こういうことを全部した後にはロングサポートをしていくことになります。

もう一つ彼らがいったん仕事に就いた後の、統計的な調査について報告します。

アメリカでは就職に成功する例は34.5%、TEACCHでは83%という数字が出ています。アメリカにある様々な就労支援の平均が35だとすると、私たちは83で2倍以上であり、非常に高い率になっています。

まずアセスメントをする、そしてストラクチャーティーチングで教えていくことにどのような効果があるのか、という研究もしています。それによると、まず先にアセスメントがあり、次にストラクチャーティーチングをするということによって、ロングタイムサポートが上手くいく理由になっています。

NCではIT企業が様々あり、23,000人の雇用が必要だと言われてはいますがまだまだ足りません。

最初は検査室で1対1の状況の中でTTAPをします。その後、ASDについてある程度理解のある、事務所管理、倉庫管理、IT企業、フードサービスなどの場所に連れて行って評価を受けることが用意されています（特に順番はなく、彼らの好きそうなところから始めることが多い）。そういうことを繰り返しながら、個々ではこれがよかった、違う場所ではこれがよかった、と評価していきます。嫌いな場所に連れていくことにありません。

ITの資格がある人をフードサービスに連れていくことはありません。フードサービスは騒がしいし、においもあるし、そういう状況が自閉症の人にストレスになることがあるので、わざわざそれをするということはありません。私たちがアセスメントをするのは、成功経験を積むためであり、うまく行ったか行かなかったということを経験させるためではありません。そしてジョブマッチングも始まっているので、彼らをアセスメントする場所もある程度選んで紹介していきます。

彼らがそこで学ぶべきスキルについて、例えば会計の仕方などはTEACCHでは教えられないので、そのために人を雇って教えることもあります。評価が終了すると、その後4枚から7枚程度の彼らのアセスメント結果についてのレポートを作ります。

インターンシップのプログラムに紹介されてくる人はすべて障がいのある人です。みんな自閉症の学生です。大学の大きさにもよりますが、カレッジには30人から50人位、自分が自閉症であると自覚している人がいます。

もう一つの問題は、自閉症だと気づいていない自閉症の人がいるということです。大学に私が強く勧めるのは、大学は自閉症だということを彼らに伝える必要がない、そして、もしそういう学生がいるならTEACCHセンターに連絡をくださいということをお伝えしています。

このプログラムに登録している企業は4つあります。そのほかに3つの企業と契約を結ぼうとしています。今日の4時にも1つの会社と会う予定です。

これまでと違ってTEACCHセンターからアプローチすることはなく、自閉症の人を採用したい、自閉症のことを学びたいという時に、インターネットでは検索するとトップにTEACCHが出てくるので企業の方から連絡が来ます。その状況はすごく変わってきていて、昔はこちらからアプローチしてダメと断られる状況がありましたが、今は、こちらが断らなければいけないということも出てきました。

その企業とは、NCの健康管理センター、IBM、NCデパートメントそしてIT, Lincoln Financial SAS、スイス銀行、Fidelity（資産運用グループ）などが自閉症の人を採用したいと言っていますが、まだ20人くらいしかトレーニングできていない。まだまだ自閉症の人が必要です。

自閉症の人でインターンシップに就く人もいますが、その中には、周りからは自閉症の人だと思われるような人もSASに入ってトレーニングを受けています。

SASが自分たちで開いているコンピュータプログラムを学ぶ授業は、私たちがその授業を受けようと思うと、3,000ドルかかりますが、自閉症の人は95ドルで済みます。そのように優先的に講座を受けることができる理由は、とにかく人材が足りないからということ、そして、自閉症の人が高いスキルを持っていると知っているからです。最初はものすごく慎重だったスイス銀行も、すぐに自閉症の人が高いスキルを持っているとわかり、もう二人採用したいと言ってきました。その人の給料は、年55,000ドルで、中にはこの2倍くらい稼ぐ人もいました。

SASが自分たちで開いているコンピュータプログラムを学ぶ授業は、私たちがその授業を受けようと思うと3,000ドルかかりますが、自閉症の人は95ドルで済みます。そのように優先的に講座を受けることができる理由は、とにかく人材が足りないからということ、そして、自閉症の人が高いスキルを持っていると知っているからです。

最初はものすごく慎重だったスイス銀行も、すぐに自閉症の人が高いスキルを持っているとわかり、もう2人採用したいと言ってきました。その人の給料は年55,000ドルで、中にはこの2倍くらい稼ぐ人もいました。

インターンシップは12~24週間続きます。時給12ドルと決まっています。1年に大体24,000ドルになる計算です。NCでの最低賃金は時給7.25ドル。カリフォルニアでは15ドル。生計を立てるのに最低賃金では誰も働きたくないので、企業は最低賃金の提示をしないのが普通です。

### ※見学に出発

まずは「モービルクルー」。リンダさんの家で働いている自閉症の成人3名（デイビット、スティーブ、そして女性が1名）に会う。そこには2名のジョブコーチ（エリックとキャロル）も来ている。エリックはジョブコーチとして働いて9年目になる。エリックがデイビットを支援するのは週3日で、残りの2日間は別なジョブコーチが担当している。

ジョブコーチの中には彼らを助け過ぎてしまう人もいるので、1年間でコーチの担当を変えることにしている。

メガネの黒人の女性は13年間TEACCHで仕事をしている。自立的に清掃に取り組んでいるが、ストラクチャーは自分で設定している。ファイルバインダーに、1日分のスケジュールや手順書が入っていて、ここから取り出して取り組み始める。

スティーブは2002年9月から働いている。人に触られたり、触ったりするのが苦手だから、人が多いのが気になっているかもしれない。日曜日からサマータイムが始まったので少し混乱しているかもしれない。彼のスケジュールは、デイビットのものとはよく似ている。

働くときに誰がなにをやるのかを決めるのはジョブコーチ。同じ場所を同じようにするのは時に混乱することがある。誰が先に…とその場をコントロールしてきめるのは、ジョブコーチ。

個人のファイルには、遅れたらどうするか、とか、リラックスするにはどうすればいいのか、ということを書いてある。彼が仕事をするためのサポートのために視覚的な支援のグッズを使う。

うまくできた記録がたまると、ご褒美に彼は三時間のお出かけを手にすることができる。

ここにいる人は問題行動を起こしそうな人なのでほぼマンツーマンでジョブコーチがついている。

数字カードを廊下にばらまいたり、ものさしでエリアを分けたりして掃除をする場合もあります。

マイク:ワールドマーケットでも自閉症の人を雇っていて、このものさしも、ワールドマーケットからいただいたもの♡

床をはいたり拭いたりするのが苦手な人は、掃除機を使ったりもする。ハンドクリーナーで床を掃除することもある。



## 次にEV (Extraordinary Ventures) に行く。

JDさんは、ここのスーパーバイザー。マネージャーも兼務している。

EVは、元々家族がスタートさせたオフィスで、家族が独自で彼らに仕事を探そうとして立ち上げた。この建物を手に入れてスタートした。いろんな仕事に挑戦してきたが、今の形に落ち着いてきた。

### まず一番大きいのが、洗濯物を扱う仕事

地域の家庭から洗濯物を集めてきれいにする仕事。学生寮があるので、大学生からの洗濯のニーズがあります。まず青い袋に洗濯物を入れて寄宿舍の一箇所に集めます。そこから自閉症の人たちが袋を集めて運ぶところから始まります。

バックヤードに持ってきた後、まずは正確に数えて、次に、机の上でそれぞれの種類に分類して、再び数を正確に数える。預けた分が返ってこない、というクレームが時々あるので、数の間違いがないように洗濯前と洗濯後に記入するようにする。

何番のカゴに入れて、何番の洗濯機に入れて、何番の乾燥機に入れたのか、色別の数字カードで識別できるようにしていく。それぞれの数字のカードを持っていて、それぞれが一緒になるようになっている。

洗濯は色の濃いものと薄いものを分けて洗う。洗剤の量が計れない人がいるので、一回分が出てくる機械がある（大げさな感じ）。

乾燥機に入れたときには自閉症の人がカードを移動させる。

カゴの高さが違って、背の高いカゴには洗いあがった洗濯物を入れるようにする。たたむ時には洗濯物のジグを使う。（ただし丁寧ではない）

### 2つ目の仕事

会社のダイレクトメールの発送の仕事を持っていてEVはその仕事を請け負っている。封筒は広告にもなっている。例えば弁護士を選ぶときの弁護士の意思表示にもなっている。封筒には、自閉症の人が仕事を請け負っているということがプリントされている（違反切符を管理している弁護士）。

ここで働く人たちは一人ひとり自分のスケジュールを持っており、例えばアレックスの場合は、まずメールの仕事をするという指示がある。そしてそれぞれのステーションで何をやるかの指示がある。

ステーションAでは、それぞれの手順書があり、あとB,C,Dという風につながっている。Bでは印刷、封筒、Cではスタンプを押す、Dでは郵便局にもっていけるようにパッケージング（箱詰め）するなど。一人一人に合わせて必要な道具を使っていく。ここでもジグを使うことがある。

### 3つ目の仕事

EVギフトを作る仕事。いろんなロウソクや石鹸、宝石を作ったりもしている。それぞれの手順書がある。

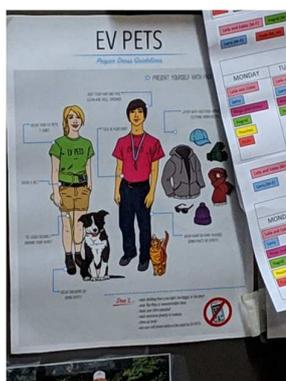
ロウソクの芯を真ん中に立てるのに苦労していたけど、シールを貼ることで解消された。

全てオーガニックで作っているのだから、材料を食べても平気。ホールフーズのようなオーガニックのショップでは、普通に扱ってくれる。

科学も関係している。溶かすのは185度でないといけない。それより高ければ、香りが飛んでしまう。

キャンドルは10から12ドルくらい。それぞれ違う値段だと思います。

また出来上がりの商品にステッカーを貼る仕事。ろうがなくなったら、裏側に買ってくれたことへの感謝のメッセージが書かれていて、見えるようになっている。



### 4つ目の仕事

EV Pets。犬の散歩の仕事。犬を散歩に連れ出す仕事があり、ユニフォームを着て名札をつける。

歩いているとき興味がある人がいたら、名刺を渡すようにする。飼い主に報告するカードも用意されている。

うんちを処理する袋や、サニタイザーなどもリードにセットされている。



### 5つ目の仕事

カンファレンスルームも経営している。結婚式やミーティングで使うなどして、この貸しスペース業務で稼いだお金は、他の作業をしている人たちの賃金に当てられる。彼らはおおよそ時給8ドル程度で働いている。

部屋の賃料は半日で300ドルくらい。持ち込んで食べることもできる。

### 6つ目の仕事

もう一つはバスの清掃。それも請け負っている。窓やシートを拭いたり、床をはいたり、バスの降車ボタンをきれいにする仕事。

一日に大体5台洗うことになっている。バスの運行を一旦中止にして、洗ったらまた戻るということをしている。

EVでは、全体で65人働いていて、3人から4人がマネジャーとして働いている。そして、その下にアシスタントマネジャーがいて、その中には、自閉症の人もいる。自立して1人で働く人もいるし、ジョブコーチがついて働く人もいる。

### SAS (サス) に移動

SASは企業等からデータを請け負って、データ解析をしている場所。自閉症の人たちが働いている場所は昔ながらの場所で、最近、新しいトレーニングセンターが別にオープンした。

#### ジェイソン(スーパーバイザー・マネージャーも兼務)

彼はTEACCHで24年間働いている。エリアマネージャーとして広いエリアを受け持ち、その中でコンサルティングをしている。

TEACCHは、SASと21年間提携している。クライアントは6人いる。3人はここで働き、他の3人はSAS内の別のカフェで働いている。

エンクレーブという考え方があり、企業の中で自閉症の人達が「領土」を作るように集まって仕事をする。それを1人のジョブコーチが支援するというものがあるが、ここでは2か所に分かれているのでちょっとニュアンスが違う。

テリーは24年間働いている。彼は文字が読めないなので絵による視覚支援をしている。1日に5時間働く。テリーは1時間ジムに行くのも取り入れている。グループホームで暮らしている。ロニーもグループホームで暮らしている。

## 日本版 PEP-3 自閉症・発達障害児 教育診断検査 [三訂版]



### 検査名

日本版 PEP-3 自閉症・発達障害児 教育診断検査 [三訂版]  
Psychoeducational Profile-3rd edition

### 原著者

Eric Schopler (エリック・ショプラー)

### 訳者

茨木俊夫

### 検査項目

全172項目

### 対象生活年齢

2歳～12歳

## —教育相談や療育・養育・医学臨床・健診に生かせる—

### 長年にわたる成果！

E. ショプラー教授をはじめ、多くのTEACCH部スタッフ、および日本側スタッフの協力を得て、数年がかりでわが国の文化にあった「教育診断検査法」ができあがり、それにそった検査用具、検査記録用紙を同時に作成・発売し、ひろく好評をいただいた。近年、標準化された診断評価が必須だとして、多くのデータを収集し、群間比較のデータを提供。また親などの養育者レポートを設けて、定型発達の子どもたちとの比較を行うのに有用な形式とした。

### 楽しく遊ばせて検査ができる！

この検査は質問紙的なものではなく、用具をフルに使って子どもが楽しく遊ぶ場面を直接観察しながら診断ができる。

また、「合格(2点)」「不合格(0点)」の判定のほかに遊びに取り組もうとする「芽生え」の反応(1点)を観察することにより、臨床的に生きた手がかりを得ることができる。

その実施においては検査者が身振りしたり、実演してみせるなど柔軟性を持っているので、さまざまな子どもの状況にも即応でき、かなり長い時間にわたり取り組むことが可能である。

### だれにでも容易にできる！

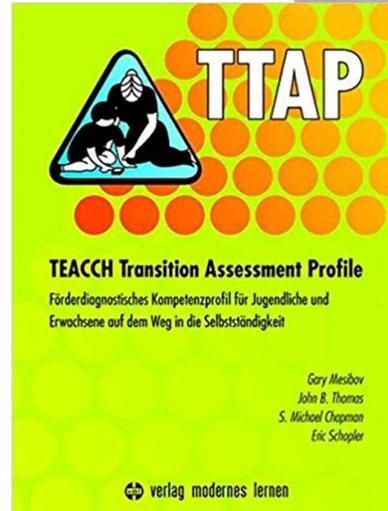
これまでの診断検査にくらべて、内容や用具・記録の点で実施しやすい。また、心理学を専門とする人びと以外の、保育士・教師・保健師の方がたにも数回の実施経験をもっただけで、容易に習得ができ、模倣・知覚・運動機能・認知機能など、発達上の重要な側面を的確にとらえることができる。

診断を単に診断のみに終わらせることなく、子どもの発達に即した教育臨床・施設療育などに生かすてがかりをあたえてくれる。

## TTAP(TEACCH Transition Assessment Profile)

TTAPは自閉症児者支援で世界的に著名な米国ノースカロライナ大学TEACCH®自閉症プログラムで開発された学校から成人生活への移行のためのアセスメントです。わが国では、「自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール」と訳されています。

TTAPはフォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメント分野に分かれており、フォーマルアセスメントでは三尺度、六領域で評価されます。三尺度とは直接観察尺度、家庭尺度、学校／事業所尺度で、一側面からの尺度に偏らず総合的に観察される尺度です。そして、六領域にはハードスキルといわれる仕事そのものの能力を測定する「職業スキル」だけではなく、仕事以外のソフトスキルといわれる「機能的コミュニケーション」や「対人行動」にまで踏み込んだ、真に自閉症スペクトラム障害に特化した最先端のアセスメントです。特別支援学校から卒業後の移行支援だけではなく、事業所から企業への移行にも有効なアセスメントです。自閉症児の成人期の社会参加のために、基本から勉強できるものと思います。



## 今回の訪問で**知恵**を得て再確認できた！ 適切な療育・支援・保育とは・・・

建物や環境の構造化に注目しがちだが・・・

**利用者さん一人ひとりが安心して安定的に活動（就労）できるような、「プログラムの構造化」が重要**

行動や適応力だけに目を向けがちだが・・・

**「当事者の強み」を発見し、それを育てることが最優先**

当事者を一番知っているのは、ご家族、だからご家族の話をよく聞き

**「ご家族を共同治療者として」療育・支援にあたる**

まだまだ **工夫**できる！

アセスメント・モニタリングをしっかり行う

適切な個別支援計画や保育計画をたてる

そして

利用者さん一人ひとりが安心して安定的に活動（就労）できる  
利用者さんの強み「Strength」が伸びる

利用者さんの満足・職員のやりがい

皆さんの努力のおかげで  
2018年度の収益は2年度ぶりに大幅に改善できそうです。

介護・福祉の分野も労働力不足です。2020年度には東南アジアの青年を向かえ入れようと思っています。

介護業界は、利用者獲得のための激しい競争を繰り広げています。障がい分野も同じような状況になりつつあります。

社会福祉法人は小規模法人から大規模化へと変化しつつあり、介護・福祉・保育分野では、やがて法人の集約が始まります。

今こそ職員にとって魅力ある事業所、利用者さんに喜ばれる事業所作りが求められています。

今こそ**知恵**と**工夫**とやる気です。

2019年5月11日

理事長 佐瀬 睦夫